

# 広島大学附属三原学校園 幼小接続カリキュラム

～子供へのまなざしやかかわり方を接続する子供中心のカリキュラム～

私たちは、本カリキュラムに示している子供の姿や、それらを受け止める教師のまなざしやかかわり方を特に大切に、子供たち自らが学びたいという思いや願いを抱き、活動に没頭し、成功や失敗を重ねながら次の学びにつなげていく、その姿こそ、真に学びが深まっている姿であると考えています。

R8年3月19日現在

幼小で大切にしていること		○具体的な子供の姿		⇒教師の姿勢（環境・援助）			
育てたい資質・能力	キーワード	幼稚園 年長	小学校 1年	実態に合った提示	個々の願いの尊重	待つ	見守る
躍動する感性	人間味溢れる豊かな感覚 人・もの・ことの面白さや不思議さを豊かに感じ取りるとともに、自分とは異なる感じ方に気付く。	心動かす	○周りの環境に、心を動かしてかかわる。 ⇒大人の価値判断で禁止や制約をせず、子供たちが感じている不思議さや面白さに共感する。 ○一人一人が自らの感じ方や考え方を表現し、それらをお互いに尊重する。 ⇒各自が感じたり考えたりしたことをみんなの前で表現する機会を保障し、保育者が受け止めるモデルを示すことで、周りの友達も受け止めることができるようにする。		○新しい環境に対して、心を動かして主体的にかかわる。 ⇒一方的に教師の考えを押しつけるのではなく、「どんな～があるかな?」、「どうして～だろうか?」等の気付きや疑問を引き出す問いかけを意識する。 ○一人一人が自らの感じたことや考えたことを安心して表現する。 ⇒個々の感じ方や考え方には違いがあることに加え、家庭や幼稚園・保育園での学びや育ちにも多様性がある。教師自身が違いを楽しみ、そのことに付き合える余裕をもって共感的に理解する。		
	自ら学ぼうとする姿勢 遊びや生活の中で、したいことやできることを見つけて、自分から取り組もうとする。	意欲 (自分から) (自分のこととして)	○自分たちがしたいことに取り組み、満足感や達成感を味わう。 ⇒子供たちの思いや願いを理解することにより、達成のための時間や空間、自由を保障し、適切な援助を行う。やりきった満足感や達成感を共感的に受け止め、更なる意欲につながるようにする。 ○生活の当事者として、様々な事を話し合っ決めて、責任をもって取り組んだりする。 ⇒遊びや活動、園生活の様々なことを教師が決めたり予定通りに進めたりせず、子供たちが話し合っ、自分たちの生活や遊びを決める権利を保障し、その実践を支える。教師任せではなく、自分のこととして取り組む経験を積み重ねられるようにして、子供なりの当事者意識が身につくようにする。		○思いや願いを大切にしながら学びをつくり出し、満足感や達成感を味わう。 ⇒子供たちがしたいと思ったことに取り組みすることができるようこれまでの経験を把握し、カリキュラムを弾力的に設定する。ゆとりをもった生活時間を設定（初めのうちは、チャイムにこだわらない）し、子供たちの思いや願いが学習に反映され、達成感が次の学びへの意欲につながるようにする。 ○当事者意識をもって自治活動をする。 ⇒生活の中で出てきた問題を「学びのチャンス」として捉え、課題を話し合っ改善・解決していく時間を保障する。子供たち自身で話し合っ解決することを見守り、子供たちの思いを十分に引き出し、それぞれの思いをつなげるようにすることで、子供たち自身で問題を解決していけるという体験が積めるようにする。		
レジリエンス	粘り強く取り組む力 自分（たち）の目的に向かって、粘り強くやってみる。	粘り強くやってみる 達成感	○失敗や挫折をしても大丈夫だという経験をする。 ⇒教師が「今のそのままを受け止める」ことを大事にすることで、子供の中での安心感や主体性が育まれることを援助する。 ○成功体験や挫折を克服する体験をする。 ⇒子供の願いを理解し、それが実現できる援助を行ったり、挫折に寄り添い、共に解決していく援助を行ったりする。		○できたことに自信をもち、さらなるステップアップをめざす。 ⇒入学当初、集団としてはばらばらで、それぞれの思いを共有するにも横のつながりも十分できていない時期ということ踏まえ、今、できていることを認め安心感をもつことができるよう肯定的な評価を大切にすること。 ○困難を乗り越える経験をする。 ⇒困難に遭遇したとしてもやり遂げようとしている姿を大切に、みんなが共有できるように広げていく。		
	コラボレーションする力 友達の思いに耳を傾け、協力して遊びや生活を進めるようになる。	思いを伝え合う 協力する楽しさ	○安心して本音をぶつけ合いながら、共通のめあてに向かって遊びや生活を共に作り上げていく。 ⇒はじめからきまりを設定するのではなく、子供同士がぶつかり合える状況をつくる援助を行う。その上で、共に意見を伝え合いながら遊びや生活を楽しくしていくことができる援助を行う。		○安心できる人間関係がつかれるように、担任教師との関係づくりをする。 ⇒子供が抱えている不安を取り除くように「大丈夫だよ」「一緒に考えよう」などの言葉とともに、「～したら、安心できそう」というものを共に見つけ、支援する。「そうだね」「すごいね」など共感的な理解をしながら、子供たちの思いを引き出せるように傾聴し、縦の関係を築いていくようにする。 ○見えていない友達の良さに触れて、人間関係を少しずつ広げる。 ⇒子供の言動の良さやその裏にある考えの良さを積極的に他者に広げる。縦の関係を土台に友達同士の関係作りも広げていけるように、子供たちの姿を大切にすること。		
横断的な知識	複眼的に思考する力 自分とは異なる考え方に触れる。	異なる考え方が あることに気付く よりよい解決へ	○思いの実現に向けて友達の意見を聞いたり、遊びながら友達のやり方にふれたりすることで、違う考えに気付いたり、自分の中に取り入れたりする。 ⇒自分のこととして聞くことができる状況づくりを保障したり、他者の意見や考え方が伝わりやすくしたりする援助を行う。		○生活や学習の中で見つけた課題の実現に向けて、友達の考えややり方に触れて、よりよい解決へつなげる。 ⇒友達と一緒に遊んだり生活をつくったりする中で、自分が主体的にかかわりをもったことだからこそ、そのことを実現させたいという気持ちがあることを支えていく（思いが高まっていない子供を否定しない）。その上で、だからこそ友達の意見も自分と関係ある、自分のこととして聞くという経験となるように支える事を大事にする。		
	知識と知識を関連付けながら追究する力 経験したことを生かして、遊びや生活に取り入れてやってみようとする。	多様な体験をする 経験を生かす	○今の遊びや生活を充実させるために、以前やったことを再現しようとして、以前考えたことを思い出したりする。 ⇒思い出せるようにヒントを与えたり、思い出したことを言語化したり記号化したりしながら、過去が現在につながる援助をする。そして、過去のことが活かされ、現在が豊かになることを、子供たちと共に喜ぶことを大事にしている。		○幼児期までの学びをつなぎ、新しい環境（小学校生活）に適応する。 ⇒今までの経験を交流させる中で、子供たちの「～やったらできそう」という思いを引き出し、「～できた」と自信を付けている子供たちに「幼稚園までの頑張りでこんなことができるの」「すごい」と評価をすることにかかわりの重点を置く。小学校はこういうものだと思込込むのではなく、幼児期までの学びを活用して「できた」という経験を積めるようにしていく。子供たちの育ちや学びの中で、新しく出会うものがどのように見え、感じられるのかを読み解き、子供たちをしっかりと「みる」ようにする。		
子供の思いや願い	活動・単元・題材例	<b>ドッジボールなどルールのある遊び</b> ・思い切り身体を動かしながら、友達と一緒に競い合うことを楽しむ。 ・いざこざになったときや、ルールが曖昧だったときに、友達同士で話し合っ、解決する。 ・どうやったらチームが勝てるか作戦を考えたり、自分の得意なことを発揮しようとしていたりする。 <b>お店屋さんごっこなどの友達との遊び</b> ・自分たちのしたいことに向かって、意見を出し合ったり、協力してお店作りをしたりする。 ・小学生との交流で経験したことを再現しようとして、年少児に作り方を教えたりしながら遊びを進める。 ・みんなの前でお店の宣伝をしたり、どうやって進めたらよいかを相談したりする。 <b>劇遊びに向けての活動</b> ・どんな劇がしたいか、何の役がしたいか、どんなストーリーにするかなどを、友達と一緒に話し合いながら、自分たちで考える。 ・劇の内容や役をイメージしながら、友達と一緒に劇に必要なものを考えて作る。 ・役になりきって演じることを楽しんだり、どうやったら見る人にさらにわかるかを伝え合ったりする。		幼稚園 最高!	ドキドキ (不安) ワクワク (期待) 怪我したら、どこに行けばいいの? 校庭できれいな花を見つけたよ。 友達できるかな? 廊下の矢印は何? 給食の配膳はどうすればいいの? 遊具でみんなと遊んでみたい。 持ち物はどこに入れてもいいの? 友達のこともっと知りたいな。	関連する教科・生活場面の例 ・がっこう たんけん(生) ・こうてい さんぽ(生) ・おなまえ おしえて(国) ・すきなものは なあに(国) ・おいしい きゅうしょく(特) ・しぜんのもを つかって(図) ・ゆうぐ あそび体 ・みんなで たのしく道 ・朝・帰りの準備	やったーできたー! もっとできそう! 小学校って楽しいな!